

会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度第1回弘前市健康づくり推進審議会
開 催 年 月 日	令和4年5月24日（火）
開 始 ・ 終 了 時 刻	午後1時30分から午後3時00分まで
開 催 場 所	弘前市保健センター2階 大会議室
議 長 等 の 氏 名	弘前市健康づくり推進審議会 会長 井原一成
出 席 者 (1 4 名)	学識経験のある者：委員 井原一成 委員 木田和幸 保健・医療関係者：委員 澤田美彦 委員 渡邊康一 委員 磯木雄之輔 委員 築館寛子 公共的団体の推薦：委員 福島龍之 委員 斎藤明子 委員 八木橋喜代治 委員 成田津江 委員 村田大六 委員 三上美知子 公募委員：委員 棟方淳也 委員 永澤裕子
欠 席 者 (1 名)	関係行政機関職員：委員 齋藤和子
事 務 局 職 員 の 職 ・ 氏 名 (1 2 名)	健康こども部長：一戸ひとみ、健康増進課長：山内恒 健康増進課長補佐：小倉洋幸、佐藤美加 健康増進課主幹：澤居吏香子、三浦五月、鳴海悦子、土岐暖子 健康増進課係長：齋藤恒夫、健康増進課主査：田村沙織 会計年度任用職員：野呂淳、相馬芳理
会 議 の 議 題	(1) 弘前市自殺対策計画の計画期間延長について (2) (新) 弘前市健康づくり表彰被表彰候補者について (3) その他
会 議 結 果	下記会議内容に記載のとおり
会 議 資 料 の 名 称	・ 令和4年度第1回弘前市健康づくり推進審議会次第 ・ 弘前市健康づくり推進審議会委員名簿 ・ 資料1 弘前市自殺対策計画（令和元年度～令和4年度）の 計画期間延長について ・ 資料2 弘前市健康づくり表彰制度の創設について ・ 資料3 「健康都市弘前」の実現に向けた取組

<p>会議内容</p>	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 事務局紹介</p> <p>4 案件</p> <p>(1) 弘前市自殺対策計画の計画期間延長について</p> <p>(2) (新) 弘前市健康づくり表彰被表彰候補者について</p> <p>(3) その他</p> <p>5 弘前市健康こども部長挨拶</p> <p>6 閉会</p> <hr/> <p>4 案件</p> <p>(1) 弘前市自殺対策計画の計画期間延長について</p> <p>・事務局：資料1説明</p> <p>【質問・意見】</p> <p>・委員より</p> <p>具体的に弘前市民がどれくらい亡くなっているのか。ちなみに男性が多いとか、女性はどうなっているのか。</p> <p>→事務局</p> <p>令和3年度の自殺者数は40人で、令和2年度に比べると6人増加。男性が30人で令和2年度に比べて10人増加している。女性は10人で4人減っている。</p> <p>・委員より</p> <p>看護師の国家試験のために学生に教える数字と弘前市の実数と若干ズレがあるので、実数で見ていくのも私たちがイメージするためには良い。</p> <p>・委員より</p> <p>目標を立てるのはいいが、自殺に対する地域、市民の意識を実態調査することができないか。16歳以上からそういう自殺を考えたとか、健康であるとか、自殺者数の周知度とかそういうアンケート調査をしてはどうか。</p> <p>→事務局</p> <p>自殺対策計画を1年延長するが、新たなアンケート調査についても考えていきたい。</p> <p>・会長より</p> <p>1年延期ということになるから、延期した来年、委員の皆さんと考えていただきたいということによろしいか。</p>
-------------	---

(委員より異議なし)

・委員より

市でゲートキーパー養成を行っていると思うが、受講者の数はだんだん増えているものか。それとも一定数で取っているのか。

→事務局

ゲートキーパー養成講座はいろいろな方に実施している。昨年度は希望者約250名を養成した。コロナ禍の影響で人数は少なくなっていたが、本年度も希望者に実施予定。

・委員より

先ほど男性、女性の割合はお話しいただいたが、例えば18歳未満や子ども達に自殺者が多いのか。それとも50代以上や60代の自殺が多いのか。自殺につながる方の年齢や理由の統計はあるか。

→事務局

昨年度のデータでは、男性は40代が多く、女性は50代が最も多く、全国と同じような傾向。自殺の原因については男女ともに一番多いのが「原因不明」だが、男性の2番目に多いのが「勤務問題」で、仕事の関係や人間関係が原因で亡くなる方が多い。女性の2番目に多いのが「健康問題」である。

・委員より

生きている間に気軽に相談できる場所が必要だと思うが、いのちの電話は電話料が発生する。どう思うか。

→事務局

誰かとお話しできる、自分の気持ちを伝えるとかわかってもらう、わかってもらえる誰かがいるということは自殺を止める一つの大きな力になる。相談することが大事だと思っているので、保健センターで電話と来所の相談を年中しているが、相談数がどんどん増えている状況にある。毎日のように電話して気持ちが落ち着く方もいるので、相談についてはいろんな場面でPRしている。ここをどんどん使っていただきたい。

→事務局

先ほどの実態調査の意見について、この自殺対策計画を含

め市の総合計画も後期計画の策定期間になっており、市民の意識アンケートをはじめ、いろいろなアンケートがあるので自殺の単独実態調査よりは、大きな調査の中にこの項目も入れていけるかを検討しながら進めていきたいと考えている。

・会長より

いろいろな調査だと住民も大変なので、適切な方法で適切なタイミングでやっていただきたい。自殺は10年以上前から増えていて、それから徐々に低下してきていた流れがあり新型コロナウイルスに感染し、コロナうつとかコロナ難民とかある。新型コロナウイルス感染症の影響は数的にあるか。

→事務局

新型コロナウイルス感染症の影響が直接数字にどのように影響しているのか分析するのは難しいが、40人は最近の弘前の中では多い数なので、増加傾向にあるといえる。

・会長より

自殺対策に関する皆さんの高い関心が議論の中では伺えたが、この計画期間延長について原案どおりでよろしいか。

・委員より

自殺未遂者の数は把握されているものか。自殺未遂者はかなりハイリスクなもので、もう一回自殺未遂を繰り返すという問題を抱えてると思うので、全体の自殺未遂者に関しては把握しているか。

→事務局

厚生労働省が発表している暫定値にはなるが、数は把握している。当市は、男女合わせると自殺者の中で「自殺未遂歴あり」が3名、「ない」が13名、「わからない」が24名。

・会長より

特にご意見がなければ、原案のとおり進めたいがよろしいか。

・委員より

(異議なし)

・会長より

異議なしと認め、原案どおり承認する。

(2) (新) 弘前市健康づくり表彰被表彰候補者について

・事務局：資料2説明

【質問・意見】

・会長より

評価項目ではないと思うが、自薦と他薦の割合はどうか。

→事務局

今回7件の応募があり、自薦が6件、他薦が1件である。他薦もありで、毎年表彰を実施していくので、皆さんからもいい活動があればぜひ推薦をお願いしたい。

・委員より

弘前城本丸ラジオ体操というのは参加資格とか決まっているのか。

→事務局

一人の個人からスタートし、いつも参加するメンバーはある程度いて固定している。名称に「弘前城本丸ラジオ体操」と会がついてないのは、会として設立した団体ではなく、楽しくやりたい人達の集まりだという思いで活動している。

・委員より

実際に知っている人も今日は本丸でラジオ体操をやってきたとフェイスブックに投稿しているので、参加している人は結構いると思う。

また、このサンライフ弘前水曜会はラージボール協会の一部ということか。

→事務局

そうではない。完全に任意の団体、市民団体である。サンライフ弘前に集まりラージボールを一緒に行い、それを通して体を動かしていこうという集まりである。

・委員より

この募集要項で件数は限定しないとあるが、ラージボールのサークルが今年は1件だが、他にもあって今後募集してくると思われる。限定しなくても大丈夫か。

→事務局

今のところは表彰件数に上限を定めずに広く紹介していきたいという思いがメインにあるので、たくさん応募して欲しい。

・委員より

中央病院、鳴海病院のストレスチェックに関してすごく良い取り組みだとは思いますが、通年としてストレスの強度として

ケアした人数や取り組んだ人数など、どれくらいの方が無料でケアしたかわかるものか。

→事務局

個人情報でもあるので、こちらでは捉えていない。

・会長より

職場の健康づくりではあるが、本人がストレスチェック後に相談するかどうかは、事業所側の健康配慮義務と個人のプライバシー扱いが難しいところである。

・会長より

表彰された場合には表彰状とか貰えるのか。それともどこかに掲載されるのか。

→事務局

表彰状授与式を7月3日の健康まつりで行う予定。その他活動自体は市のホームページや広報誌に紹介して皆さんに見ていただきたいと考えている。

・会長より

弘前城本丸ラジオ体操では表彰状をもらったらどこに保管するのか。

→事務局

最初に始めた人がそのまま続けていくと思うので、その人が保管することになると思われる。

・委員より

応募期間が短い感じがする。あと、応募する公表の仕方、メディアに公表するのはどういう所で公表するのか。

→事務局

募集の周知方法としては、市のホームページや広報ひろさきに掲載し、そのほかラジオ、アップルウェブ、陸奥新報の市政だよりにも掲載した。

・委員より

応募期間がほぼ1か月だがどの段階から公募しているのか。この期間は適切なのか。

→事務局

今回初めての開始ということで、新年度に要綱を作った後即募集を開始した。5月6日としたのは、7月3日に毎年ヒロロで弘前市と医師会が主催で、薬剤師会、歯科医師会共催

で市民の健康まつりというのを実施している。その際にお集まりいただき皆様の前で表彰したいと考えており、審議会で審査していただくことを踏まえた。スケジュールや表彰する場面については、今後もより効果的な機会を考えていきたい。それに合わせ、可能な限り募集期間を設けられるようなスケジュールを検討していきたい。

・委員より

健康づくりの表彰というのはとても良い。一方で目標について見たが、皆が同じ方向を向いてやれることは、運動が多いのかなと感じた。食事のようにとても個人差があるような目標は、生活習慣を改善していくグループで目標としてやっていくのはなかなか難しいと気になった。5人以上のグループだが、様々な事情からグループに入れない人やグループを作れない人、関心のない人も市民の中にいると思う。その人達のためにこのような表彰制度はとても励みになると思うが、そうでない人達のためにも、小さな目標達成をする喜びを積み重ねていき、やがては大きな目標達成につながるような物があると良い。例えば、健康アプリみたいなもので、ゲーム感覚で楽しみながら健康増進につながるようなものが理想である。そうなっていくと集団とは違い、個人の改善の積み重ねがとても大事になると思う。アプリが理想的であるが、予算や人材の確保とか難しいと思われるので、将来にむけて考えていただき、目標達成を積み上げていくロールプレイングゲーム的なことをやると楽しいかなと思う。

→事務局

表彰制度に係る目標に関して、みんな同じ方向を向いての取り組みにおいて、運動とか取り組みやすいもの、一方で食生活などドメスティックなものは個人個人のレベルによって、相違しているものもあると思う。健康というものの認識、市民の健康づくりに取り組んでいくものにもいろいろな手法があり、その取り組みの主体も家庭や企業であり、今回の表彰制度を創設したからといって、すぐに市民全体が健康になるとは思っておらず、表彰制度がきっかけで地域の取り組みに気付いて、もしかすれば参加していく、自分でやってみるきっかけづくりができていけばいいと思っている。

先程お話された健康アプリというものが、個人個人がご自身の取り組みで楽しみながら進めていくのが、非常に大事になっていくと思っている。結局これから健康づくりを進めて

いく上で、いろいろな取り組みを考えていきながら、カギとなるのは健康に意識がある人、健康づくりに積極的に取り組む人よりも、全くそういったものに関心がなくて行動に至らない人を、どう行動に至らせるかが重要な課題であると思うので、楽しみながらアプリを使ってやるなど、健康増進課だけでなく全庁的に今後の取り組みを検討しているところなので、ぜひアプリの活用も視野に入れて考えていきたい。

・委員より

各町会で、健康的な運動とか少しずつやっていると思う。そういうのを含めて、発表していく事案として皆さんに知らせたほうがいい。うちでも弘前医療福祉大学の4学年の学生たちと年1回か2回、今年は「小比内健康地域プロジェクト繋げよう健康リレー」ということで来月健康教室がある。その他「保健だより」を発行してもらい、小比内町会に予算を付けて一生懸命やっている。チェック項目には当てはまらないが、老人クラブと一緒に学生たちと親睦を深めて動いている。これも、コロナ禍の影響でここ2、3年できなかったが、去年は1回やった。今年の4年生がまたやりたいと、いろいろ進めているので、この地区でいろいろやっているよと情報発信をしていただければよろしいのかなと思っている。

→事務局

各町会で、住民を対象にした健康づくりに関する活動は、様々見受けられている。市で健康づくりサポーターという地域住民の中に、同じ目線で同じ立場で健康づくりに関して一緒に取り組んでいく人を、市が委嘱して実施している。市内に約180名おり、町会と連携して、その地区の健康づくりに関する教室をやっている。サポーターの各地区の活動をまとめた活動報告を作っているが、まだ住民の方々に知れ渡ってはいない部分もある。まだまだ周知は不十分だと思っているので、活動報告書等を活用しながら、より地域の住民に発信していきたい。

・委員より

私たち健康づくりサポーターは地区それぞれで、自身は和徳学区を持っているが、今まではコロナ禍で思うような活動ができなかった。今年はそれぞれの町会毎に、何町会か集会所に少人数で集まって、そこでいろいろな血压測定等、地域

の人たちと交流を持ちながらやっていきたい。地区全体の集まりとか、その地域でのコミュニケーションをとりながら進めて、今年はやっていくつもりである。全町会に伝わっていればいいなとは思ってはいるが、今年は新たな気持ちで、サポーターを頑張っていきたいと思っているので少し長い目で見ていてほしい。

・会長より

コロナ禍でいろいろな所で影響があると思うが、小規模に人数は制限しているか。

・委員より

コロナ禍前は、サポーター2人1組になり、一軒毎に回っていた。健診と言うと行かないと言われる。病院に行ってるからいいと。それは病気の検査であって健診とはまた違うというのを教えながら一軒ずつ回っていくが、町内の人たちが集まってコミュニケーションを取りながらやっていくので、集まっても10人から15人くらいで集まって、月に1度くらいやるという考えでいる。

・委員より

健幸増進リーダー会としては、ここ7～8年の間ずっと各町会とか各グループ、団体とか一緒になって健康増進を図ろうとやってきている。かなりの数、万を超える数の人たちが参加している。活動内容、回数は1000回を超えている。その中でも、ロコミプラス何か方法があればもっと広がっていくと思う。私も10年間以上、自分の地区で住民に対して健康になってほしいとの思いで活動をしているが、その結果、どういう風なのか、いまひとつ漠然としている。皆さんに認知してもらうためにもどういう方法があるのか。例えば、健康まつり等で機会を捉え、いろいろなところに参加し、事細かにアピールしていくような機会を提案できればと思っている。

・会長より

健康づくりサポーターも健幸増進リーダーも、これからたくさん継続的な活動をされていくと思うので、この表彰の候補になれば活動を知らせる宣伝になるのではないかと。

この候補について審議するが、被表彰者を7件と決めれば

よいか？

→事務局

表彰制度に関しては、最終的に市長が被表彰者を決定することになっているが、その表彰にあたり本審議会の審査を経て、具体的に言えば、候補者として適当かどうかをご判断いただきたい。関係資料を用いて整理した7件は、いずれも表彰要件に合致しているため、事務局としては適任と考した。その案でよろしければ追認いただきたいと考えている。

なお、表彰の対象者には、市の組織や支援する公共的な団体は対象外となる。具体的には、ひろさき健幸増進リーダーや町会、健康づくりサポーターの組織は対象外である。ただし、町会の任意団体が、健幸増進リーダーを活用しながら、独自に取り組みをされているのであれば、その団体は当然表彰の対象となる。

・会長より

今回の候補は、どれも立派な活動だということで、私たち委員としては、やはり表彰の資格が十分あったということで報告させていただいてもよろしいか。

・委員より

(異議なし)

・会長より

全て承認とする。

(3) その他

・事務局：資料3説明

【質問・意見】

・会長より

この取り組みに関し今後審議会でも何か対応があるということでもよろしいか。

→事務局

人の健康というものが一番のベースになるところから、この審議会で諮っていただきながら進めていくということなので、本当のベースのところを皆さんの貴重なご意見などをいただきながら今後進めてまいりたい。

・会長より

以上を持って、本日の案件はすべて終了とし、事務局にお返しする。